

和光市の空家等を取り巻く現状と課題

現状	【空家等の相談窓口の実態】	協議会・検討会における意見
	■協議会・検討会委員から、「市民がどこに行けば何を相談できるかが分かっていない」との意見があった ■専門家団体から、「専門外の内容について、どこに相談してよいのか分からない」との意見があった	
課題	・市の空家等に関する総合相談窓口がないため、多くの市民がどこに行けば何を相談できるか分かっていない ・相談事業を単独で行う団体もあるが、団体間で内容や問合せ先が整理・把握できておらず、連携できていない	

現状	【空家発生のきっかけ、空家になってからの期間】	和光市空家等実態調査(令和4年度)
	アンケート調査に回答があった空家等60棟において、 ■居住しなくなった理由は、「別の住居へ転居(38.4%)」が最も多く、次に「亡くなった(25.0%)」が多い ■2分の1以上の空家が、5年以上放置されている「5年以上10年未満(26.7%)」、「10年以上(25.0%)」	
課題	・居住者の移動・死亡(相続)をきっかけとして空家になり、空家として長期間(5年以上)放置されている	

現状	【和光市の人口(将来推計)】	日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)(国立社会保障・人口問題研究所)
	■市内の人口は、令和17年をピークに減少に転じ、高齢化率は上昇が続いていく見込み	
	【持ち家かつ高齢者のみの世帯】	国勢調査(令和2年調査)(総務省統計局)
	■市内の持ち家世帯の約4.4世帯に1世帯が、65歳以上の単身世帯又は65歳以上の夫婦のみ世帯である	
課題	・高齢者(65歳以上)のみの世帯が一定数あり、少子高齢化の進展により、空家になる可能性が高い建物が増加すると考えられる	

現状	【利活用の可能性がある空家等の実態】	和光市空家等実態調査(令和4年度)
	アンケート調査に回答があった空家等60棟において、 ■6割以上の空家等が利活用の可能性がある 約4分の1(16棟,26.7%)は改修を必要とせず、3分の1(20棟,33.3%)は一部改修すれば使用できる ■約3分の1(21棟,35.0%)の空家等の所有者は、利活用に関して「現状では未定」と回答しており最も多い ■所有者が望む支援として、「解体・改修費用の経済的な支援」の回答が最も多い(18棟,30.0%)が、「信頼できる業者などの紹介(17棟,28.3%)」、「安心して相談できる公的な窓口の設置(14棟,23.3%)」、「各種専門家による相談会などの実施(9棟,15.0%)」といった、相談しやすい環境の実現を求める回答も多い 既存の取組「無料相談窓口」の利用に関して、 ■令和3年4月に開設した無料相談窓口の利用が進んでいない(R3:3件,R4:3件,R5:0件※)※R5.10月時点	
課題	・利活用に関する情報提供や窓口の設置等を求める声が多いが、実際は、無料相談窓口に相談するなどの行動に移っている所有者は少ない(関心が低い、意識が高まっていない)	

現状	【管理不全な空家等の実態】	和光市空家等実態調査(令和4年度)
	■現地調査で立木の管理が不十分な空家等が29棟確認され、管理不全な状態の中で、立木の管理に関する問題が最も多い ■近隣住民からの相談では、「草木の繁茂」に関する相談が最も多く(R3:11件、R4:7件、R5:11件)、次に「建物・擁壁の破損」が多い(R3:7件、R4:3件、R5:5件) ■空家等の所有者に対して、適正管理に関する通知を送付しているが、現地対応がなされないケースがある	

現状	【空家等の維持管理で困っている理由】	和光市空家等実態調査(令和4年度)
	アンケート調査で確認できた、維持管理に困っている空家等26棟において、 ■困っている理由(※複数回答可)は、「費用の問題(14棟,53.8%)」が最も多く、次いで「遠方に居住(9棟,34.6%)」、「時間的に余裕がない(8棟,30.8%)」、「相談先がわからない(7棟,26.9%)」の順に回答が多い	
課題	・立木の管理が不十分である空家等が最も多く、近隣からも空家等の草木に関する相談が多い ・所有者は、費用以外に、「遠方に居住」、「時間的に余裕がない」、「相談先がわからない」などを理由に、現況の把握ができておらず、かつ管理に関して自発的な相談・依頼を進められていない	